



令和4年12月発行予定の瑞星13号。自校の健康課題解決に向けて活かせる実践がたくさん掲載されています。編集だより3号では実践事例「保健教育」分野の一部を紹介します。発行をご期待ください。

## 発達段階や特性に合わせた実践

<特別支援学校>

### 「児童生徒一人一人の生活の質の向上をめざした 歯科指導の工夫」

児童生徒の一人一人の発達や特性に合わせ、「見える化」「実感化」しやすい教材や指導方法を工夫した実践です。歯肉の状態の改善を実感することで、「健康の良さ」を感じ、将来のQOLの高まりにつなげる取組です。

<幼稚園>

### 「幼稚園におけるICTを活用した教材の開発と保健指導」

コロナ禍での保健教育として、感染症の予防やマスクのつけ方、免疫力を高める生活等、「今」伝えていく必要があるものを、幼児にもわかりやすく伝えるためにICTを活用した教材の開発とその活用についての実践です。ICTの活用により、休園中も家庭と連携して感染症対策に取り組んでいます。

## 家庭や地域との連携を活かした実践

<小学校>

### 「食と健康のつながりに気づき、 食の大切さを学び続ける児童の育成」

日本の伝統的な食を通して、食と心身の健康のつながりに気づき、生涯健康に過ごす力を育むことを目標に、地域人材を活用し、多様な学びや経験を多く設定した実践です。児童が給食の献立を考え、調理し、実食することで実感を伴った深い学びにつながっています。

<中学校>

### 「生涯にわたり健康の保持増進に努めようとする 生徒の育成」

カリキュラムマネジメントが確立された実践です。「授業を中心とした系統立てた3年間の健康教育への取組」「授業以外での健康に関連付けた教育活動の推進」「地域と連携した健康教育活動の推進」の3つを柱として、生涯にわたり健康の保持増進に努めようとする生徒の育成を目指した取組です。

## 現代的な健康課題解決に向けた実践

<小学校>

### 「よりよい生活習慣づくりに取り組む 児童の育成」

不適切なメディア機器の使用は、生活習慣の乱れ等心身の健康に影響を及ぼします。発達段階に応じた保健指導の他、家庭と連携したメディアコントロールの実施やメディア機器使用以外の過ごし方の提案等、工夫を凝らした取組が紹介されています。

<中学校>

### 「心身の健康問題の解決を図るための 保健教育の進め方」

校内の栄養教諭、地域の関係機関と連携した肥満対策に関する実践です。栄養教諭によるスポーツ栄養教室やマイ弁当等の取組を通して、中学生に「肥満」という言葉を使わずに、「栄養バランス」に目を向けて肥満対策を進めた実践です。「町の学校保健委員会」の設置は、全国的にも珍しいのではないのでしょうか。

<高等学校>

### 「カフェテリア方式を取り入れた 健康教育」

養護教諭が、コーディネーターとしての役割を果たし、カフェテリア方式での心の健康講話を開催した取組です。カフェテリア方式を採用することで、生徒が興味や関心のあるテーマを主体的に選択し、講話を聴くことができるため、理解度が大変高く、楽しく学ぶことにつながっています。